

第50回 SCCJセミナー開催のご案内

技術革新へのチャレンジ、そしてブレークスルー

本セミナーは化粧品を創るためのさまざまな分野からテーマ選定をしましてまいりましたが、今回は「技術革新へのチャレンジ、そしてブレークスルー」と題し、業界内からは経験豊かな5人の講師により、スキンケアからメイクアップの製剤毎に、これまでどのような挑戦がなされ、今日の技術革新に繋がったのかといった点について講演をしていただきます。さらに、家電業界での最新の美容技術や人間工学に関する学術的な講演も盛り込んでおりますので、本講演により、皆様のさらなる知識向上や化粧品業界の発展へと繋がることを期待しております。また本セミナーの特色でもある、講演後の講師と意見交換ができるフリーディスカッションの場もご用意いたします。講師の皆様と直接議論する事で、聴講するだけでは得られない新たなヒントも見つけられるものと思います。こちらにも奮ってご参加ください。

記

日 時 2017年9月22日(金) 10:00~18:00 (受付開始 9:30予定)

会 場 セミナー：きゅりあん(品川区立総合区民会館) 8階大ホール
 フリーディスカッション： 同会場 7階イベントホール
 〒140-0011 東京都品川区東大井 5-18-1
<http://www.shinagawa-culture.or.jp>

参加費

| | |
|---------------|---------|
| 会員(正・準・シニア) | 13,000円 |
| 代理出席(注1) | 13,000円 |
| 一般 | 19,000円 |
| 当日参加(会員・一般共に) | 19,000円 |

(注1) 正会員が不参加の場合は代理人1名が代理出席を利用できます。

申込方法 申込用紙に必要事項をご記入の上、下記の番号までFAXを送信願います。

FAX ⇒ 045-590-6093

申込を頂きましたら確認のFAXを事務局から返信致します。3~4日以内に届かない場合は、事務局までご連絡をください。なお、参加証は発行していません。

<申込締切日 2017年9月7日(木)>

<振込締切日 2017年9月14日(木)>

お振込みの際、振込人氏名(御社名)の前に**50**をご記入願います。

振込先 みずほ銀行 銀座支店 普通 1797932

「日本化粧品技術者会(ニホンケシヨウヒンギジュツシャカイ)」

キャンセルおよび複数でのお振込みの詳細は最終ページをご覧ください。

技術革新へのチャレンジ、そしてブレークスルー

< スケジュール >

< 総合司会 工藤 大樹 (ポーラ化成工業(株)) >

| 時間 | 題目・講師 |
|-------------|------------------------|
| 10:00-10:05 | 開会の挨拶 セミナー委員長 植田 光一 |

< 座長 尾ノ上 弘典 (東色ピグメント(株)) >

| | |
|-------------|---|
| 10:05-10:45 | 化粧水・美容液製品開発の考え方 (株)コーセー 内藤 昇 氏 |
| 10:45-11:25 | 化粧品の器としてのエマルション —エマルションの自在な造形へのチャレンジ— (株)資生堂 岡本 亨 氏 |
| 11:25-12:35 | 昼食休憩 |

< 座長 飛田 和彦 (味の素(株)) >

| | |
|-------------|---|
| 12:35-13:15 | メイクトレンド・生活場面からのクレンジング開発 ニッコールグループ (株)コスモステクニカルセンター 鈴木 敏幸 氏 |
| 13:15-13:55 | ファンデーションの設計技術 ポーラ化成工業(株) 坂崎 ゆかり 氏 |
| 13:55-14:35 | サンスクリーン剤の製剤化技術 花王(株) 石井 宏明 氏 |
| 14:35-14:50 | 休憩 |

< 座長 石川 博文 (株)ノエビア >

| | |
|-------------|--|
| 14:50-15:40 | 家電業界と化粧品業界の共創によるイノベーションについて ～センシング技術の活用とメイクアップシートの開発～ パナソニック(株) 川口 さち子 氏 |
| 15:40-16:30 | モノづくりはヒトを知ることから始まる —人間工学の視点から— 大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授 岡田 明 先生 |

< 総合司会 工藤 大樹 (ポーラ化成工業(株)) >

| | |
|-------------|-------------|
| 16:40-17:55 | フリーディスカッション |
|-------------|-------------|

| | |
|-------------|------------------------|
| 17:55-18:00 | 閉会の挨拶 セミナー副委員長 細川 均 |
|-------------|------------------------|

演題 ① 化粧水・美容液製品開発の考え方

㈱コーセー 内藤 昇氏

要旨：本講演では、化粧品製剤開発の中で、特に化粧水・美容液の処方開発の考え方を、製剤開発の技術論だけでなく、化粧品としての嗜好性や有用性についても述べてみたい。化粧水については製造技術やその機能性について、また美容液については、特にリポソーム美容液についてその開発経緯や処方開発の技術内容および機能性・有用性について概説したい。

演題 ② 化粧品の器としてのエマルション —エマルションの自在な造形へのチャレンジ—

㈱資生堂 岡本 亨氏

要旨：エマルションにおいてその粒子の形態を自在に設計することは化粧品の機能につながると考えられ、界面の構造化、エマルションサイズのコントロール、エマルションの多相化などエマルションの造形に向けた多くのチャレンジがなされてきた。これらは化粧品に新しい価値をもたらす一方で、エマルション生成や安定化への挑戦でもあった。本講ではこれらの開発経緯に触れ、どのようにブレイクスルーし、価値を実現したか考察したい。

演題 ③ メイクトレンド・生活場面からのクレンジング開発

ニッコールグループ ㈱コスモステクニカルセンター 鈴木 敏幸氏

要旨：メイク化粧品ベースとして、汗や皮脂に崩れない高持続製剤が普及している。一方、役目を終えたメイクを素早く肌に優しく、しかもサッと洗って落としたいということから、メイク落としの場は水場へと移行している。高持続油性化粧料を素早く溶解・分散するためには「親油性」であること、速やかに洗い流すためには「親水性」であることが不可欠となる。これを満足させるための製剤技術、更にはより水に強い油性メイク落としへの深化と、その性能を伝えるための苦労？・・・についてお話する。

演題 ④ ファンデーションの設計技術

ポーラ化成工業㈱ 坂崎 ゆかり氏

要旨：お客様がファンデーションに求める要素は、演色性、隠蔽性、持続性、肌保護性、使用性、利便性、…と多岐に渡る。しかし、これらの要素が常に同じベクトル上にあるとは限らない。処方設計者は、しばしば、「あちらを立てればこちらが立たず」というジレンマに襲われ、その妥協点を見出すために苦労を重ねることになる。本講演では、こうしたジレンマからの脱却をテーマとして、ファンデーションの処方設計、素材設計の事例を紹介する。

演題 ⑤ サンスクリーン剤の製剤化技術

花王㈱ 石井 宏明氏

要旨：サンスクリーン剤は、SPF、PAといった指標でその効果を訴求できる数少ない化粧品の一つであり、紫外線吸収剤／紫外線散乱剤といった成分を配合して高い紫外線防御効果を付与すること、耐久性が高いこと、そしてもちろん感触が良いことなどが求められる。それが故に、サンスクリーン剤の開発に求められる製剤化技術は、スキンケアやメイクアップ化粧品の製剤化技術とも異なる。本講演では、サンスクリーン剤の製剤化技術において重要なポイントと、幾つかの具体的な開発事例に関して述べる。

演題 ⑥ 家電業界と化粧品業界の共創によるイノベーションについて ～センシング技術の活用とメイクアップシートの開発～

パナソニック㈱ 川口 さち子氏

要旨：IoT、AI等に代表されるICTは目覚ましい発展をとげようとしており、誰しも、その恩恵を受けられる時代がすぐそこに迫ってきている。当該時代に向け、化粧品業界と家電業界における各々の得意分野を融合させ、新たなイノベーションを起こすことはできないだろうか？家電業界から化粧品業界へのラブコールの一つとして、センシング技術、および、ナノレベルの薄膜へ化粧剤をIJプリンティングしたメイクアップシートの取組みについて紹介する。

演題 ⑦ モノづくりはヒトを知ることから始まる —人間工学の視点から—

大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授 岡田 明先生

要旨：超高齢社会の進展やユニバーサルデザイン思想の浸透を背景に、使いやすく快適で健康的な製品が求められている。その実現には、多様な特性とニーズをもつユーザの生理や心理を明らかにしたうえで、それらのデータを翻訳し設計値に落とし込む必要がある。このセミナーでは、そうした人間中心設計のためのデザインプロセスやヒトの測り方、設計解を求めるポイント等について、人間工学の視点から紹介する。

〈お願い事項〉

- キャンセルされる場合は、**2017年9月14日(木)**までにご連絡をお願い致します。
参加費納入済みの場合には、後日返金いたします。**2017年9月15日(金)**以降にキャンセルされたときは、ご返金できません。
- 申込書に記入された振込金額と異なる場合は、必ず事務局まで **FAX (045-590-6093)**にてお知らせ願います。入金確認業務の円滑化にご協力をお願いいたします。

〈お問合せ・お申し込み先〉

日本化粧品技術者会 事務局 (森、千葉)

〒224-8558

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株資生堂 リサーチセンター内

TEL : 045-590-6025 FAX : 045-590-6093

会場案内図

まゆりあん

品川区立総合区民会館

〒140-0011 品川区東大井5-18-1

<http://www.shinagawa-culture.or.jp>

● 交通のご案内

JR京浜東北線・東急大井町線・りんかい線大井町駅下車徒歩1分

